

# 豊橋文化

VOL.64 2026.1.15

[発行所] 公益財団法人豊橋文化振興財団  
[連絡先] 豊橋市西小田原町123  
TEL (0532) 39-5211 FAX (0532) 55-8192  
年4回発行

新しい一年が始まり、皆さんにおかれましては健やかに新春をお迎えのことと存じます。今号では、市民お月見会の入選作品や特選受賞者のコメント、そして年明け以降の行事予定をお届けします。寄せられた作品には、暮らしの中の景色や小さな願いが静かに息づいています。どうぞ作品の世界に触れ、新しい一年の始まりに小さな彩りを感じていただけましたら幸いです。

## 第52回豊橋市民お月見会 受賞作品紹介

11月22日(土)に「第52回豊橋市民お月見会」の表彰式が行われました。今年は川柳129句、俳句156句、短歌110首の中から「特選」「秀逸」「佳作」の作品がそれぞれ選ばれました。特選の方々のコメントとともにご紹介いたします。



▲表彰式のようす

### ●特選作品紹介

【川柳の部】  
名月に再起を祈り並ぶ肩  
西郷紀美代

—どのような想いで詠されましたか?

今年の盆前に、夫は発熱が続き緊急入院。生検の結果は悪性リンパ腫。余命数ヶ月の宣告。腎臓や肝臓、喘息などの持病があり、緩和ケアも考えましたが、主治医からは「今は治療も進化していく、治療をしないなんて勿体ない」と励まされ治療することに。二週間入院しましたが、夫は、趣味の短歌会に出られないことに涙して悔しがっていました。その時の想いを川柳にしてみました。

お月見の時には自宅療養でしたが、抗ガン治療で、貧血状態。体の怠さが常にあり、また、口内炎の繰り返しで食事が大変。今でも闘病生活が続っています。

— 川柳を始められたきっかけを教えてください。

平成18年10月末ごろ東日新聞に、故鈴木如仙先生の選評で川柳が載っていました。その中に知人の名前を見つけて懐かしくなり、また最後に「新人歓迎」とあったので応募してみました。先生からは、すぐ手紙を頂きました。川柳の基本を学び一生懸命でしたが、楽しく、今では懐かしい思い出です。

\*

【俳句の部】  
月光の天へ階なす棚田かな  
大竹宏一

—どのような想いで詠されましたか?

今年は中秋の名月が見られるか危ぶまれましたが、中秋の名月の晩、家の二階の窓を開けて外を眺めました。目前に広がる月光が屋根屋根を照らす光景は、過日奥三河の布里の里への道中で見た燐然と輝く月光に照らされる棚田を彷彿とさせました。そこで屋根屋根を棚田と思い作品を詠みました。

— 俳句を始められたきっかけを教えてください。

還暦を過ぎて健康的の為に田原の蔵王山に登るようになりました。登山道の両端に俳句の書いた杭が頂上まで続いており、それを読んで魅力を感じました。その頃田

辻弘之先生の俳句講座が南部地区市民館で始まるのを知り受けました。早や23年がたち、今は辻弘之、高橋いすず両先生の元、豊橋、田原、新居の仲間と月2回の句会を楽しんでいます。

\*

【短歌の部】

農を辞め兄の作りし里芋は  
小ぶりで円し今宵名月  
木下カヅヨ

—どのような想いで詠されましたか?

定年退職をして、時間のゆとりが出来た頃から月に関心を持つようになりました。特に中秋の名月は、真夏の様な今年の気温の中でも、澄んだ空に秋を感じさせてくれます。月を愛でながら、ふる里や賑やかだった家族との暮らしを憶います。私のふる里は大分県ですが東三河に来て五十年以上が経ちました。父母はすでに他界しているので、里には高齢の兄夫婦が暮らしています。稻作中心の山里が高齢化と若者の流出で人口は減り、今は稻作は法人に委ねているのが現状です。兄は家庭菜園のみで野菜を育てて、母がしてくれた様にダンボールに里芋、カボス、しいたけなど詰めて送ってくれます。ふる里に浸れる嬉しく幸せなひと時です。

— 短歌を始められたきっかけを教えてください。

六十年前のこと、大学で初めて記憶に残る三十一文字の歌に出会いました。茶道の祖である千利休が、茶道の精神として大切にしていたといわれる次の和歌です。花のみ待つらん人に山里の雪間の草の春を見せばや(藤原家隆)当時の家政学のゼミの先生が茶道に熱心でしたが、家事労働の家族への心配りや茶道の客に対する心づかいなど、この和歌を紹介しながら講義されたことが強く印象に残っています。特に、温かく人を励ます様なこの和歌をその後もずっと大事にして来ましたが、定年退職をしてから短歌を作りはじめました。

入选作品集を配布しています。

今回のお月見会の入选作品集を三の丸会館、豊橋市民文化会館、穂の国よし芸術劇場で無料配布しています。

**VOL.22**



上野公園と浅草橋界隈  
斧路朱音

「一生に一度の出会い。奇跡の大回顧展!」のキャッチフレーズと「ミロ展を見ろ!」という知人のベタなオヤジギャグにかられて『東京都美術館』に訪れたことがある。早朝から多くの美術ファンが詰めかけ、9時半の開門と同時にエスカレーターで一斉に地下になだれ込む集団…そのあとに続々会場に向かう。1893年、スペインのバルセロナ生まれ、ピカソと並び20世紀の巨匠と称されるジョアン・ミロは、自然界にある形を抽象的な記号に置き換えた詩情溢れる独特な画風で知られる。この回顧展では、初期から晩年に至る絵画をはじめ、彫刻や陶芸など各時代を彩った選りすぐりの作品を世界中から集め、その真髄を伝えている。とりわけ《ヤシの木のある家》など初期作品と1920年代の《オランダの室内》、戦火を免ねながら「星・夜・音楽」をテーマに描いた《星座》シリーズの3点が見どころだが、ミロの制作意欲は晩年になっても衰えなかった…新たな表現に挑戦した《焼かれたキャンバス2》には、ちょっと驚かされた。

『東京都美術館』を出て、ル・コレビュジエ設計による世界遺産『国立西洋美術館』の「西洋絵画、どこから見るか?ルネ

サンスから印象派まで」をハシゴ…副題に「サンディエゴ美術館VS国立西洋美術館」とあるようにアメリカと日本の共同企画展で、サンディエゴの日本初公開49点と西洋美術館の88点を組み合わせて36のテーマに基づき、比較展示を行なう静物と題する写実絵画が目に留まった。特に《マルメロ、キャベツ、メロンとキュウリのある静物》と題する写実絵画が目に留まった。



さて、その日の宿は浅草橋のビジネスホテルで、上野からは秋葉原経由で総武線に乗り換えて2駅と近い。ホテルに入る前に柳橋にある洋食「大吉」に立ち寄り、予約を入れようとしたが、テーブルはすでに満席…カウンターなら空いているというので、19時にリザーブ。酎ハイを飲みながらホテルで待っていると、東京に住む娘から着い

気まぐれ

**VOL.22**

フチ旅



## 新春ご挨拶

公益財団法人豊橋文化振興財団  
理事長 高須博久



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと存じます。今号では、市民お月見会の入選作品や特選受賞者のコメント、そして年明け以降の行事予定をお届けします。寄せられた作品には、暮らしの中の景色や小さな願いが静かに息づいています。どうぞ作品の世界に触れ、新しい一年の始まりに小さな彩りを感じていただけましたら幸いです。

昨年は、地域の皆様とともに文化を育み、次世代へとつないでいく多くの機会に恵まれた一年となりました。舞台芸術や伝統文化の鑑賞・体験事業、文化団体の皆様による日頃の研鑽の成果の発表など、いずれの場面においても、人と人が集い、文化を介して心を通わせることの大切さを、改めて実感いたしました。

また、小学校へ出向いて行うアウトリーチ活動や、文化団体の先生方のご協力を得て開催した伝統文化こども教室などを通じて、子どもたちが芸術や伝統文化に触れる機会を大切にしてまいりました。

一方で、社会を取り巻く環境は大きく変化し、文化活動を継続していくためには、これまで以上に柔軟な発想と工夫が求められています。当財団といしましても、公共性を大切にしながら、時代に即した事業のあり方を模索し、文化が日常の中に自然に息づく環境づくりに取り組んでまいります。

本年も、子どもから大人まで、誰もが文化に親しみ、学び、楽しむことのできる機会を提供するとともに、地域で活動される多くの文化団体や関係者の皆様との連携を一層深めていきたいと考えております。文化は一朝一夕に育つものではありませんが、皆様と力を合わせることで、確かな歩みを積み重ねていけるものと信じております。

結びに、本年が皆様にとりまして実り多く、心豊かな一年となりますことをお祈り申し上げますとともに、引き続き当財団の活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 今号の一枚

《春の輝き》 撮影場所:袋井市



写真家 田中 歩 NHK文化センター名古屋教室／浜松教室 講師

## 豊橋市民文化会館ホール リニューアル記念イベントを開催します!

豊橋交響楽団・森のこみちバンド

記念ミニコンサート

— 新しく生まれ変わったホールの幕開けは音楽から —

豊橋交響楽団と森のこみちバンドによる、各20分ほどのこけら落としミニコンサートで、リニューアルした空間と音響をお楽しみください。客席は351席となり、ゆとりある配置に。明るく生まれ変わったホールをぜひご堪能ください。

▶日時／令和8年3月14日(土) 午後2時開演(午後1時30分開場)

▶会場／豊橋市民文化会館ホール ▶入場料／無料(要・整理券)

▶整理券配布／2月18日(水)から豊橋市民文化会館窓口で配布

## 記念特別展

「大野俊治の世界 1985-2023 人か佛か妖怪か?」

アーティスト・大野俊治がつくり続けた〈存在〉のかたち。1985年から現在まで、異界と現世を往還する100点を展示します。人・佛・妖怪が交錯する独自の世界をお楽しみ下さい。

▶会期／令和8年3月13日(金)

~22日(日)※3/16(月)休館

午前10時~午後5時 ▶会場／

豊橋市民文化会館2F 展示室

▶入場料／無料 ▶アーティスト

トーク／3/20(金・祝)午後2時~



## 令和8年度 維持会費納入のお願い

豊橋文化振興財団は、財団の目的及び事業に賛同する維持会員の皆様方の財政的支援および文化事業への参加を通じて、本年度も安定的な運営ができるおりまです。皆様方のご支援に心よりお礼申し上げます。

光熱費をはじめとした物価上昇の影響が大きい中、誠に恐縮ですが新年度も引き続き、ご支援・ご協力を賜りたく、令和7年度の維持会員の皆様には、3月上旬に更新のご案内を送付させていただきます。何卒、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

▶会員期間／令和8年4月1日～令和9年3月31日

▶会費(1口)／普通個人会員=3,000円 特別個人会員=10,000円 特別団体会員=10,000円 特別法人会員=20,000円 特別賛助会員=50,000円

